

(別添7)

事業所名 グループホームめずらハウス

## 2 目標達成計画

作成日: 平成 26 年 5 月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 |      |                                                                                                                                                                                           |                          |                                                                                                                                                                             |            |
|----------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 優先順位     | 項目番号 | 現状における問題点、課題                                                                                                                                                                              | 目標                       | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容                                                                                                                                                          | 目標達成に要する期間 |
| 1        | 6    | 調査を受けた時点では、離床センサーマットを使用されていたユニットⅠでは4名、ユニットⅡでは5名の方が離床センサーマットを使用。果たして今の状況で本当に必要なのか、入居者様お一人おひとりの心身の状態を、マット導入時と現在とで比較、検討する必要がある。また、センサーマットを撤去する場合、ご家族への説明、ご理解など十分にできるかどうかが課題。                 | 心身ともに拘束をしないケアを具体的に実行できる。 | ①多くの職員参加ができる身体拘束廃止委員会を開く。②入居時と現在の様子を比較検討し、ADLが向上された方。低下された方。維持されている方。で今後の使用を再検討する。③ご本人様、ご家族様と十分話し合い今後の方針を決定する。④センサーマットのみでなく、他にも気づかずに拘束をしていることはないか、全職員で振り返る。(例えば、声掛け、歩行介助など) | 3ヶ月        |
| 2        | 35   | 防災意識の、高さやその意識の継続には職員の個人差がある。また新人の職員が増えたが訓練や研修が十分に実施できていない。                                                                                                                                | 全ての職員が、防災意識を高めることができる。   | ①防災訓練・研修の年間計画を立てる。②全職員が来月の訓練日、訓練内容を事前に知ることができる。③新人職員研修に防災研修を加える。                                                                                                            | 3ヶ月        |
| 3        |      | 入居者様には昼間はなるべく、トイレでの排泄を促がし、車椅子を使用されている方も、トイレにて気持ちよく排泄されている。また、布パンツを使用されている方もおられる。しかし、リハビリパンツやオムツ、パットなど排泄消耗品も使用頻度が多く、ご家族様の金銭的負担が大きい。そこでご本人様、ご家族様、介護職員にとって今以上に負担が少なくなるように、消耗品の選定、使用方法の工夫が必要。 | 負担が軽減する消耗品を使うことができる。     | ①お一人お一人の身体の状態把握をする。②使用している排泄消耗品を再検討する。③業者よりサンプルを取り寄せる。④物品を比較検討し、ご利用者に合うものを選定する。⑤個別に使用方法や頻度を検討する。⑤ご本人様、ご家族様に説明し、職員と一緒に選んでいただく。<br>* 排泄ケア向上委員会が中心となって取り組む。                    | 2ヶ月        |
| 5        |      |                                                                                                                                                                                           |                          |                                                                                                                                                                             | ヶ月         |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。